

## 令和7年度 総合型選抜（総合Ⅰ） 課題解決型記述問題 出題意図及び講評

総合Ⅰにおける「課題解決型記述問題」は、高校までに学んだ教科・科目に関する知識・技能や探究的な学び等の中で身につけたものを組み合わせ、実生活や工学・情報工学に関連する内容の課題に関連づけながら、その解決に向けて応用する力を評価することをめざしている。答案は、主に以下の点に着目しながら、複数名の評価者が5段階で評価し、それらを合算した。

- ・課題で示された事象を正しく理解し・表現できているか。
- ・課題で示された事象を科学的に説明できているか。
- ・提案の内容に理工学的な視点が含まれているか。多様な考え方ができているか。
- ・読み手を意識した、論理的な文章表現となっているか。
- ・課題に対して興味・関心を持ち、理解したり何かを発見しようとしたりする態度が読み取れるか。
- ・参加者や対象者の属性まで意識した計画等が考えられているか。

**問1** リード文を基に適切に数学的（作図的）に理論値を求めることができるか、有効数字の取り扱いや平方根の近似、それを論理的に記述できているかを評価のポイントとした。さらに、対象を意識しての説明となっているかを評価した。

**問2** 与えられた実験ノートを基に考察を行えているか、その上で、考察を基にした仮説を設定し、具体的な実験計画を立案できているかを評価のポイントとした。さらに解答を通じて、それらの過程を論理的かつ適切に表現できているかを評価した。また、実現可能性についても評価した。

**問3** 自分も含めて4人で担当することと、対象が高校の新入生を意識した計画となっているか、その上でどのような目的・目標を設定したか、対象とする現象の学びが高校以降での学びにどのように接続しているかについての説明を評価のポイントとした。また、他者の協力を得ながら企画実現に必要なプロジェクトを企画・運用する力があるかを評価した。

### 講評

- ・問1において、解答・解説の指針がしっかり立てられている答案が多かったものの、作図が不適當であったものがみられ評価上の差となった。一方でリード文にある「観測レーダーはより高い位置に設置されるようになってきた」という観点が抜けているものもある程度見られた。
- ・問2において、実験ノートに記載された結果に対する考察が不十分なものや、仮説に対する検証方法となっていないものが一定数みられ、評価上での差となった。
- ・問3では自分以外のメンバーの役割についての記載が不十分な答案や、対象となる現象からどのようなことを学ばせるかについての説明がない答案が多くみられた。一方で、再現性があり論理的かつ対象を意識した解答もみられた。